

奨励賞

高校



伊藤 涼太 (イトウ リョウタ)

千葉県立市川工業高等学校 建築科

現代地球美術館

千葉県鴨川市の海岸沿いに建つ美術館である。

この美術館は「現在の地球」を表現したものである。集落のように展示室が点在し、それらを通路で繋いだ形になっている。通路は、人間を繋ぐことを表現している。一人ではできないことも、協力し合えば大きな力になれば良いとの希望を持って設計した。

そして、この敷地は森、海、空をこの場所で見ることができます。美術館の内部では、多くの美術品によって感動を得ることができる。

千葉県鴨川市の海岸に沿った松林の中に計画された美術館。正方形や長方形、正円の箱を有機的につないだ流れのような造形が目を引く。各展示室は集落に見立て、それらをつなぐ通路は、さしづめ人やモノ、文化の流れがある交易路としての役割を持たせているらしい。また本人の説明では、ゲーグルアースを見て格好よく見える造形を意識して計画したということで、その感性も新しいものを感じさせる。

計画ではエントランス、受付を通り、まずそこから地下にアクセスさせる。その地下の暗さ、不安定さを意識させておいて、そこから明るい地上階の展示スペースに導く。

7つの展示室を巡りながら、それを繋ぐ通路や休憩スペースやホールから、森や海、空を見ることで自然、地球を感じるができる。プランニングもいいし、物語性もある素晴らしい作品になっている。

松林の中にあるという想定であるならば、その松林を模型に表現するだけでももっとイメージが膨らんだように思える。それでも高校生の卒業課題として力作であるのは間違いない。これだけの才覚があるのだから今後の成長がとても楽しみである。よりたくさんの建築、街を観て、自分の建築感を持って進んで欲しいと願う。



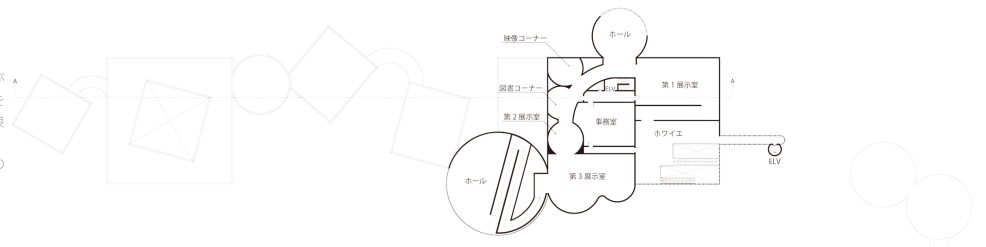
審査員：飯沼 竹一

現代地球美術館

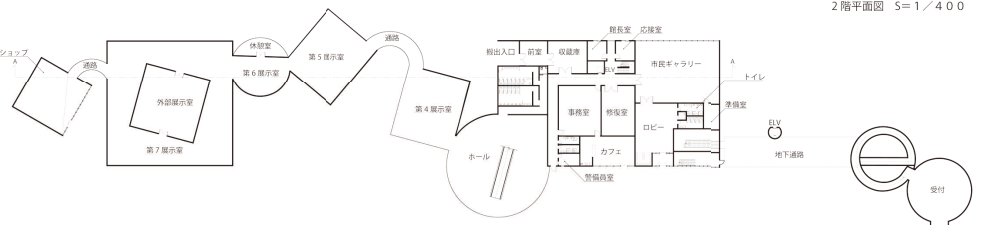
千葉県鴨川市の海岸沿いに建つ美術館である。
この美術館は「現在の地球」を表現したものである。集落のように展示室が点在し、それらを通路で繋いだ形になっている。通路は、人間を繋ぐことを表現している。一人ではできないことも、協力し合えば大きな力になれるというの希望を持って設計した。
そして、この敷地は森、海、空をこの場所で見るることができる。美術館の内部では、多くの美術品によって感動を得ることができる。



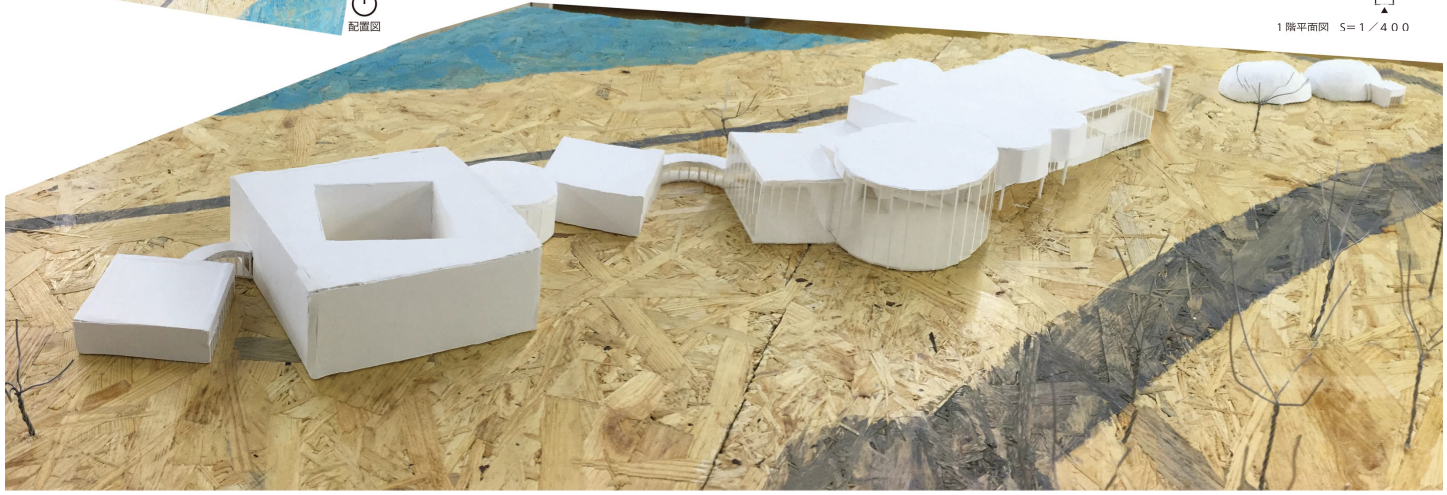
配置図



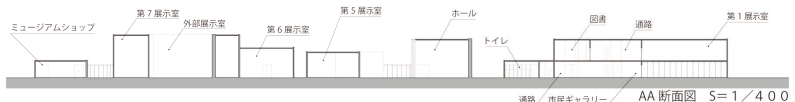
2階平面図 S=1/400



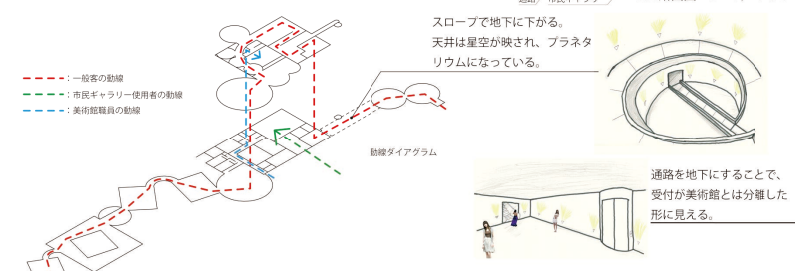
1階平面図 S=1/400



北側立面図 S=1/400

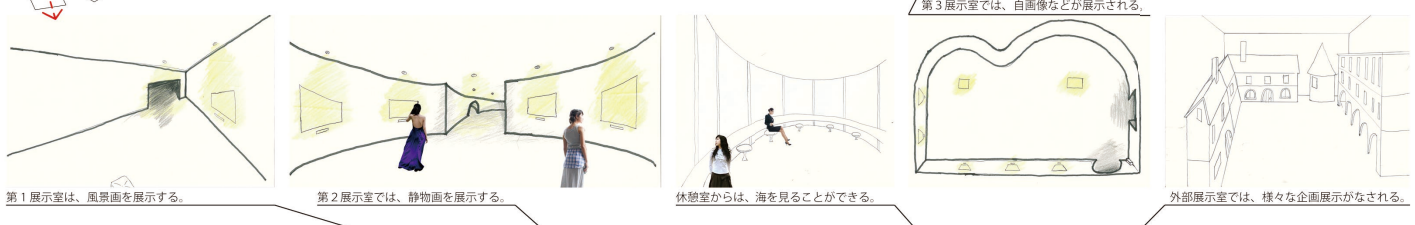


AA断面図 S=1/400



スロープで地下に下がる。
天井は星空が映され、プラネタリウムになっている。

通路を地下にすることで、受付が美術館とは分離した形に見える。



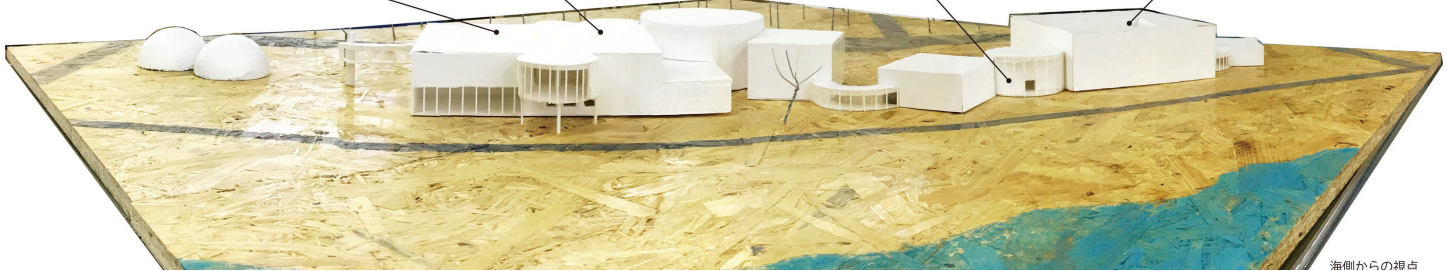
第1展示室は、風景画を展示する。

第2展示室では、静物画を展示する。

休憩室からは、海を見ることができる。

第3展示室では、自画像などが展示される。

外部展示室では、様々な企画展示がなされる。



海側からの視点